

2024年度活動概要

授業学（中部）研究会

本年度の研究会では、レフ・ヴィゴツキーの『思考と言語』を主要なテキストとして採用し、ことばに関する認知科学的な視点を共有する機会を設けました。本書は研究会の費用で購入し、少しずつ読み進めながら議論を深めました。

また、本研究会にはライティング研究を専門とするメンバーが複数在籍していることから、今年度は特にライティング研究に焦点を当てることとしました。その成果を発表する機会として、8月28日に開催された JACET 第63回国際大会において、ワークショップとポスター発表を行いました。

ワークショップは大会初日の午後に開催され、柴田直哉先生、溝口夏歩先生（ともに名古屋外国語大学）が研究報告を行い、参加者との活発なディスカッションが展開されました。多くの方に関心を持っていただき、意見交換も盛んに行われました。しかし、台風の影響により、3日目のポスターセッションのコアタイムでの交流が叶わなかったため、12月8日に立命館大学（衣笠キャンパス）で開催された JAAL in JACET において、ポスター発表を移行して実施しました。この場では、柴田直哉先生（名古屋外国語大学）、森明智先生（愛知工科大学）、吉枝 恵先生（愛知淑徳大学）が中心となり、ポスターをまとめ、研究成果を発表しました。また、基調講演者であるポール・マツダ先生とも議論する機会を得ることができ、有意義な交流が行われました。

2024年度の活動を通じて得られた知見を、2025年度もさらに発展させていきたいと考えています。特に、ライティングに関する研究成果を活かし、テキスト作成に取り組むことへの関心も高まっています。研究会として、このような新たな挑戦にも積極的に取り組んでいく予定です。